

■ R1. 12.4 市長定例記者会見内容

日時 令和元年12月4日(水)午前11時~11時45分

出席 市長、副市長、危機管理監、総務部長、企画部長

酒田記者クラブ(6社)山形新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、荘内日報、SAY

■市長発表事項

なし

■懇談・フリー質問

【新議長・副議長決定について】

記者／新議長・副議長が決定した。市長選では丸山市長を応援する会派ではないところからの選出になるが、これからの議会対応など市長の所感を聞きたい。
市長／議会で決まったことなので特別私自身コメントはない。議会対応についても、新議長・副議長とともにやっていきたい。市政運営についても議会に理解をいただいた上で市政の発展のために一つ一つ課題をクリアしていきたいという思い。先日新議長・副議長にも申し上げたが、市にとって人口減少などさまざまな課題が山積している状況なので議会からも協力いただきたいということと、議会にとっても定数や市民の意見を議員としてどれだけ議会の場で反映できるかなど、理念や掛け声だけではなく、議会としても成果を残すような活動に二人からも注力していただきたいと申し上げた。新議長・副議長には大いに期待をしている。

記者／12月議会で副市長の選任について提案があると思うがこの場でお話いただくことはできるか

市長／議会前に申し上げることはできない。

【懇談】

市長／今年最後の記者会見になる。1年間大変お世話になった。新年もよろしくお願いたい。今年は特に選挙イヤーということもあり、マスコミの皆さんも大変忙しい思いをされたのではないかと思っている。私自身も大変な選挙だった。当選後も話したが、マスコミの皆さんは、市民にわれわれのことを伝える、市民の声を聴く場として大変貴重な存在だと思っている。来年以降も懇談という形でなるべくフランクに、記者会見を通してできればいいかなと思っている。1年間お世話になった、この場を借りて御礼申し上げます。

記者／ごみについて、県の資源循環の形成の計画を見ると、当時の資料では平成32年度に県内の全市町村が家庭ごみを有料化するとあった。市長としては有料化しないという考えだと思うが、県の方針についてどう考えているか。

市長／県の方針という意味では重く受け止めたい。酒田市の個別事情、庄内町、遊

佐町との調整もあるので、現時点において来年度は有料化の段階ではないという思い。県の方針は尊重しなければならないと思うが、市町村が必ず有料化しなければならないと拘束するものではない。方針を踏まえ有料化の検討は進めていきたいが現時点で来年再来年に有料化というところまで判断する環境は整っていないと考える。選挙の時も同様の質問があったが、その時も明確には言っていない。公共料金の値上げは慎重に判断しなければならないという思い。市民コンセンサスをしっかりとらないと判断できない。特に広域行政組合でゴミ処理をやっているの酒田だけの問題にもなりえないし、時間をとって慎重に判断していきたい。

記者／広報紙で特集を組んだりしているが、ゴミに対する関心が市民にとって高まっているのではないのでは。

市長／焼却施設の処理方式、収集も含め、全体のことを考えながら有料化のことは考えていかなければいけない。最終処分場の問題もある。単に出すゴミを出させないために有料化するという、その理屈だけで持っていくのは厳しいのではないかとこの思いがある。ゴミが減れば済む問題であればもっとやるべきことがあるのではないかと広報を使ったキャンペーンのようなことをやったり出前講座をやったりしているが、劇的に効果が出ているわけではない。これからどうするか2町を含めて議論をしていかなければいけない。

記者／何か腹案はあるか

市長／私自身はない。私が当時企画調整課の課長補佐のころ現施設を作る際、どういう処理方式がいいかということで、色んなところを見て回った。当時分別のわずらわしさがなるべく少ない、しかも燃やすことで電気などのエネルギーに再生できるやり方ということで、全国に先駆けて熔融炉を導入した。私も当時導入過程で関わった。焼却スラグが少なく最終処分場にも優しく、しかも発電もしてコスト軽減にもなる仕組みというのは非常に優れた方式だと思ったので、現施設について思い入れがある。それが一つ要因として心の片隅にあるかもしれないが、時代が変わってきたのでゴミを少なくして利用できるものはもっと利用するという生活風土を地域に根付かせるために、新しい処理方式の焼却施設の導入を考えていく上では有料化も避けられないのかなとは思いますが、現時点ではない

記者／有料化しないとしても、住んでみると便利だからゴミを減らすモチベーション持ちにくい、減量しましょうという市の姿勢も感じない

市長／していないわけじゃない。PRはしている。そういった活動に関して心を打たれる住民がまだまだ増えていないという理解。昔はゴミサーという生ゴミをたい肥に変える機械を学校に導入したりコンポストを普及したが、なかなか根付いていない。有料化は最後の手段と思っている。有料化をやってゴミ減量化しようとしてもほかに手立てがない。ほかに手の打ちようがない状況になれば、有料化を前向きに検討していかなければいけない。現在袋も有料なので広い意味では有料になっている。袋の値段を上げたり、収益としてこちらにあがってくるような形になれば、

新しい施設を導入する際のコストも安く済むということも考えれば、避けては通れない大きな関門だと思う。

記者／市長としても一人当たりの排出量は減らしていきたいという思いか

市長／もちろん。いろんな形でごみを出さない生活風土づくりは大切だと思う。何と言ってもごみ処理施設が大きくなればなるほど初期費用や運営費もかかるし、人口も減っていく、ごみは少なくなるに越したことはない

記者／具体的な案があれば

市長／今の施設は電気量の節減につながっていいと思っている。武蔵野市は市役所の隣に大きなごみ処理施設があり、本市と同じ溶融炉。山などが無いので限られた狭い土地に作るしかないが、環境にやさしい施設を町のど真ん中に作るというのは、ごみ出しのルールがどうなっているかなど勉強しなければいけないと思っている。記者／十数年前からすでに酒田ごみが多いと話題になっていた。当時溶融炉を導入しそんなに経っていないとき、当時の担当課長がダイオキシンなどを発生させないために高温でやるためにはプラスチック類も混ぜてやったほうが良いと市民にも説明していた。当時から市民はその意識が根強く、それを変えていかななくてはならないのでは。

危機管理監／サーマルリサイクルということで発電でリサイクルやっているという意識だったので、気楽にプラスチックも一緒に燃やすという意識もあるし便利。自治体によってはプラスチックも分別している自治体もある。多いところでは10種類以上分別しているところもあるが、市民にとっても大変な負担になる。なかなか一気に減るといふところまではいかない。

市長／紙類などの分別もあるが、あとは水切り。ごみの量は重さで出るのどこまで徹底できているか。生ごみ処理機ゴミサーもなかなか普及しない。

総務部長／紙の分別は手間がかかるが効果が大きい。

市長／カウムの仕方で事業用なのに家庭用に入っていないかなど、統計の取り方が自治体ごとに違っている可能性がある。出てきた数字だけで本当に判断できるのかどうか怪しい。なぜ庄内地域が多いのか、かつてのわれわれの触れ込みにも要因があると思うが、もう少し分析する必要がある気がする。

記者／ペーパーラボの紙はどのような活用の仕方をしているか

市長／庁内用、名刺やメモなどにも。ペーパーレスという意味では、この時期予算書で紙を使う。新議長・副議長には紙を減らすためにもタブレットの導入などもどうかと話をした。われわれも議会もアナログでやっている。スマート社会化は議長副議長のリーダーシップにかかっているという話はしている。

記者／議会の中でWi-Fiを飛ばしたり、タブレットをどれだけの人にわたすかというところも出てくる

市長／部長級と二役と議員は貰っている報酬の中で自前でいいのではないかと。公費でやるとシステムや全体で何十機整備しなければいけないなど予算に跳ね

返ってくる。財政が大変だと議会も私も言っているのに、そのくらいのことは自費でやってもいいのではないか。

記者／予算書の保管期間はあるのか

総務部長／永年

記者／われわれも昔から予算書など貰っているが、例えばパソコンでパスワードを入れて見れるようになれば記者には配布しなくてもよくなる

市長／データ化してここで保管するとともに、災害に備え別の所に保管しておけば。そういう時代で初めてスマート社会、Society 5.0と言えるのではないか。電子化、スマート化と理念を言うのは簡単だが、議会は投げかけられた課題に関しては一つ一つ成果を出してほしいという思いで話をした。体制が変わったと言っても2年しかないのですぐ行動を起こさないと現実のものにならない。実行力は市長、市役所だけでなく議会にも求めていかなければならないと思う。

記者／白籟史朗さんが亡くなった。特に八幡の鳥海山の写真を撮られていた方。これから先鳥海山・飛島ジオパークの再認定に向けどう動くか。

市長／鳥海山・飛島ジオパークに手を上げる時副市長だった。鳥海山のジオパークだと酒田より遊佐、にかほが中心だったのであまり出番がないかと思ったが、飛島をくっつけるということをこちらから提案した。継続することは思い入れのある事業。来年の申請でクリアしたい。前の審査委員会で言われたのは子供たちの教育にどう生かすか。教育のなかで根付かせるとともに地元への愛着を高めたい。そういう意味では白籟先生の写真は私たちが普段目にすることができない写真を撮られていた。実は亡くなる一週間前に静岡県三島に行ってお会いしていた。100点ほど写真を多様にいろんな場面において使うということについて確認書を交わした。その矢先に亡くなったと知らせがきて非常に残念。山岳写真家として著名な方。その写真100点を酒田市やジオパークに自由に使っていいという約束をいただいた。それを生かして鳥海山、八幡地域の魅力発信に使おうと思っていた矢先の訃報だった。本当に残念。先生の思いを受け継いで、これからもジオパークの認定や八幡地域の発信、酒田市の一番の観光資源の鳥海山の発信に白籟先生の写真を使っていきたい。

記者／市や協議会などでジオパークについてさまざまなメディアに発信するという取り組みは考えているか。

市長／ジオパークの協議会がある。うちだけやるわけにはいかない。ただ飛島は酒田市にしかないのだから飛島は別。飛島についてもジオパークの活動の中で発信していく必要があると思う。飛島も鳥海山も酒田市にガイド施設がない。遊佐はゆらりの中にジオパークのPRブースがある。ああいうところは遊佐はすごいなと感心している。そういったものも検討していかなければいけな

いと思う。既存の施設を利用ししっかりジオパークの魅力を伝えられるような機能を持った設備を作っていく必要があるのかなと思う。来年の申請に向けては指摘されても大丈夫なようにこちら側の準備もしていく必要がある。飛島についてはマリンプラザでそういう機能を持たせようという計画はある。もう少し具体化させていかなければならない。

記者／白籟氏が亡くなっても効力は無にならないのか

市長／確認書としては生きていると思っている。私的に使うわけではなく酒田の街づくりのために100点の写真の使用権限を認めるという確認書になっている。所有権、使用権をわれわれに与えていただけるという確認書。立会人もいたが、本人が亡くなって無効になるものではないと思っている。

以上

◆その他配布資料

- ① 災害時等における電気車両及び給電装置の無償貸与に関する協定調印式を開催します（危機管理課）
- ② 市の年末年始業務および各施設の年末年始休業日（市長公室）